



Title	Defective long-term repopulating ability in hematopoietic stem cells lacking the Polycomb-group gene <i>rae28</i>
Author(s)	金, 智裕
Citation	
Issue Date	
Text Version	none
URL	http://hdl.handle.net/11094/45518
DOI	
rights	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

氏名	金 智 裕
博士の専攻分野の名称	博 士 (医 学)
学位記番号	第 19313 号
学位授与年月日	平成17年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 医学系研究科生体統合医学専攻
学位論文名	Defective long-term repopulating ability in hematopoietic stem cells lacking the <i>Polycomb</i> -group gene <i>rae28</i> (ポリコム遺伝子群 <i>rae28</i> 遺伝子欠損造血幹細胞は、長期骨髄再構築能に異常をきたす)
論文審査委員	(主査) 教授 大 菌 恵一 (副査) 教授 金 倉 讓 教授 宮 坂 昌之

論 文 内 容 の 要 旨

[目的]

ポリコム遺伝子群 (PcG) は複合体を形成しクロマチンの高次構造を通じて、遺伝子の発現の維持に関係している。本研究では PcG 1 のうちの1つである *rae28* 遺伝子 (*rae28*) 欠損マウスを作成し、その造血幹細胞 (HSC) の異常を長期にわたり定性的・定量的に評価検討した。

[方法]

rae28 欠損 (*rae28*^{-/-}) マウスは週産期致死であるため、造血幹細胞は *rae28* 欠損マウスの胎仔肝 (FL) を用いた。致死的に放射線照射したマウスに正常骨髄と共に GFP 陽性の test 細胞を移植、3ヶ月後の末梢血を FACS で解析し、競合状態で骨髄を再構築する単位 (competitive repopulation unit : CRU) を限界希釈法にて算出した。

致死的に放射線照射したマウスに serial transplant を行い、6ヶ月後の末梢血・骨髄を FACS、CFU-C assay、2回移植を用いて定性的な造血幹細胞の異常を検討した。

CRU 2個を移植し競合状態での造血幹細胞の再構築能を長期(12ヶ月)にわたり解析し、mean activity of stem cell (MAS) を算出し、定量的な造血幹細胞の異常を評価した。

[結果]

rae28 欠損 (*rae28*^{-/-}) FL における CRU の頻度は、*rae28*^{+/+} (1/2万個) の 1/20 であり末梢血を支持できる細胞の減少を認めた。(造血幹細胞とは3ヶ月以上白血球各分画を1%以上支持できる CRU と定義した。)

CRU 20個分の FL を用い serial transplant を受けたマウスの6ヶ月後の末梢血は、*rae28*^{-/-} FL 移植マウスにおいて白血球数 (p<0.001)、B細胞 (p<0.001)、T細胞 (p<0.085)、好中球 (G) + 単球 (M) (p<0.021) 有意に減少していた。このマウスの骨髄では HSC を多く含む Lin(-)c-kit(+)Sca-1(high+) の分画は野生型移植マウスに比べ有意に減少していた。(p<0.03)。骨髄における CFU-C assay においても、コロニー数の減少 (p<0.017)、CFU-Mix の減少 (p<0.003) を認めた。

再構築された骨髄細胞を同数 (2×10^5 個) を移植し 2 回移植を行った。*rae28*^{+/+} 移植マウスは 3 ヶ月後に 90% に再構築を認めたが、*rae28*^{-/-} 移植マウスは 3 ヶ月後の末梢血支持を認めるマウスを認めなかった。

CRU 2 個を移植し競合状態での造血幹細胞の再構築能を長期 (12 ヶ月) にわたり解析したが、*rae28*^{+/+} 移植マウスの末梢血に比べ、*rae28*^{-/-} 移植マウスでは 12 ヶ月のうちに徐々に各分画共に減少し、末梢血を再構成する能力の減少を認めた。mean activity of stem cell (MAS) も時間と共に減少し、12 ヶ月では正常の約 1/8 にまで減少していた。

[総括]

PcG の一つ *rae28* はその造血幹細胞において、造血幹細胞の頻度・数の異常、末梢血・骨髄を再構築する能力の異常、正常骨髄との比較による再構築能の低下を認め、造血幹細胞の自己複製や分化・増殖に関係している重要な遺伝子である。

論文審査の結果の要旨

rae28 はポリコム複合たんぱく質 I の 1 つであるが、これらはクロマチンの高次構造と関連し遺伝子の発現の維持に関与していることが知られている。本研究では competitive repopulation assay と限界希釈法を用い、*rae28* 欠損造血幹細胞の再構築能を評価している。*rae28*^{-/-} 造血幹細胞によって再構築された末梢血は、白血球数、B 細胞、T 細胞、単球、好中球のすべてが有意に減少し、骨髄では造血幹細胞を多く含む Lin(-)c-kit(+)Sca-1(high+) の分画の有意な減少を認める。CFU-C においてもコロニー数、コロニーの細胞数、CFU-Mix に有意な減少を認める。定量的な評価でも末梢血再構築能は時間とともに減少し、12 ヶ月後には正常の 1/8 まで減少している。

本論文は *rae28* 欠損造血幹細胞の長期わたる末梢血・骨髄再構築能の異常を定性的かつ定量的に評価しており学位に値すると考える。